

## 足立参院議員

# 事前防災の効果強調

自民党の足立敏之参議院議員「写真」は24日に開いた国政セミナーで、地球温暖化に伴う降雨量の増加に伴い「自然災害の脅威が高まっている」と述べ、事前防災の必要性を強く訴えた。2020年7月豪雨にも触れ、

計画を中止していた川辺川ダムが完成していれば「熊本県人吉市では、水位を約2割低下し、浸水面積を約6割低減する効果があった」と強調した。足立氏は、韓国的高速道路と比べ「日本のインフラは貧弱で、取り残さ

れている」とも主張。日本の100平方キロメートル当たりの高速道路延長が2・98キロであるのに対し、韓国は4・18キロ。韓国的高速道路は全て4車線以上

で整備されているため、暫定2車線の区間を除いた日本の延長1・85キロと比べると、2倍以上の開きがあるという。

通ネットワーク整備といった対策メニューの追加に向け、後押しが必要だ」と参加者に呼び掛けた。セミナーで基調講演に登壇した岸田文雄衆議院議員は、12月に編成される2020年第3次補正予算案について「災害は息つく暇なく襲ってくる。財政的にちゅうちょすることはできない」と、補正予算での公共事業費確保の重要性を訴えた。



事前防災や交通ネットワークの整備を加速させるため、公共事業費の確保にも言及。「緊急対策の5カ年延長や、老朽化対策や交